大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

蔵書印でたどる大阪府立大学図書館小史

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青田, 寿美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00016674

蔵書印でたどる大阪府立大学図書館小史

青田寿美

はじめに

本稿は、大阪府立大学総合図書館中百舌鳥で講師を務めた展観と講演「蔵書印でたどる大阪府立大学の歴史 ―資料を繙く、資料を伝える―」（平成29年12月21日）の一部を、本誌『百舌鳥国文』への寄稿依頼を受けてまとめたものである。講演に先立ち、一日書庫入庫をご許可いただき披見し得た資料を基とする小考ゆえ、調査の至らない点も多々あろうが諒とされたい。

一　大阪府立大学と附属図書館

まず、公立大学法人大阪府立大学の歴史と沿革を、同学ホームページの大学紹介より[1]引用する。

「大阪府立大学」は、「大阪府立大学」（旧）、「大阪女子大学」および「大阪府立看護大学」の大阪府立の3大学を統合・再編し、新たに設立された「公立大学法人大阪府立大学」が設置する大学です。その前身は明治16年設置の獣医学講習所までさかのぼることができます。

「大阪府立大学」（旧）は、昭和24年に、大阪府下にあった旧制の7つの専門学校が母体となり「浪速大学」（昭和30年「大阪府立大学」に改称）として、また、「大阪女子大学」は同じく昭和24年に、大阪府女子専門学校を母体に、「大阪府立看護大学」は、戦前の大阪府立社会衛生院以来培われてきた医療人材育成の流れを受けて、平成6年に、それぞれ大阪府により設置されました。

次に、大阪府立大学（旧）[2]附属図書館の歴史について、『大阪府立大学附属図書館30周年記念誌』[3]によって概観する。

附属図書館は、昭和24年4月大学設置と同時に、母体校（官立大阪工業専門学校、官立大阪青年師範学校、府立化学工業専門学校、府立機械工業専門学校、府立淀川工業専門学校、大阪農業専門学校、大阪獣医畜産専門学校）および府立浪速

高等学校（旧制）の図書を基本として発足した。…（略）…母体校からの引継図書が主であった関係上、その保管も閲覧もおのずから関係学部教室で行われ、いわゆる分散配置のやむなき状態であった。昭和26年に入り、堺市百舌鳥東之町の旧官立大阪工業専門学校（現工学部）内に一部の書籍とともに移転した。…（略）…昭和30年3月に至り、現在の書庫が建設されたが、内部設備は予算の関係から昭和31、33、34年度の3年度にわたって設けられ、ここに5層の書庫が完成し、各学部専用の分置図書を除く全図書を収容した。

（傍線は引用者による、以下同じ。）

府立浪速高等学校は、昭和24年、官立大阪高等学校とともに大阪大学に統合された旧制高校であるが、浪速高等学校（以下、「浪高」と略記）の蔵書だけは大阪府立大学（旧）の前身・浪速大学に移管されるという特殊な経緯をもつ。後述するように、浪高蔵書の大半は大阪府立大学に引き継がれている。[4]

続けて、前掲書（図書館30年誌）に収まる「大阪府立大学附属図書館30周年記念座談会」より、当時の状況をまとめておく。

初代図書館長・吉田清治は浪高蔵書の振り分けに尽力したが、昭和28年以降もまだ移動の終わっていない図書が相当数あった。大阪大学附属図書館の青野氏と連絡を取り合って、トラックで行ったり、本を手にぶら下げたりして、十回近く往復して浪高の旧蔵書を運んだ。また、こんな本が出てきたと連絡があると、その都度引き取りに行く。七つの母体校蔵書と比べても、浪高の蔵書に一番筋のいい本があり、特に漢籍・倫理学・教育学・ドイツ文学の資料が秀でていた。

「本来、大学と附属図書館とは教育、研究面で機能的に一体化すべきものである」と明言されているように、大学図書館の歴史は、大学の歴史とともに築かれるといっても過言ではなく、その蔵書形成にも研究と教育が不可分に関わっている。

大阪府立大学では、21世紀科学研究センターに「大学史編纂研究所」を設置（平成20年4月1日）することで、大学史資料の収集・整理と調査研究を推進し、その成果を「ハーモニー博物館Webサイト」[5]等を通し発信するという事業を展開している。本稿は、数度に及ぶ統合・再編に併せてその蔵書を形成してきた大阪府立大学図書館の歴史を、蔵書印という視点から振り返るものである。今後の大学史記述の一助となればと、愚考する。

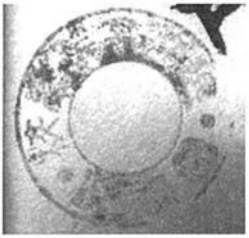
次章では、法人化後の大阪府立大学図書館につき、その歴史の一端を証する蔵書印や寄贈票等を取り上げ、時代ごとの図書受け入れの有り様や変遷、また、蔵書構築の一斑を考察する。

二　大阪府立大学図書館蔵書にみる蔵書印

二・一　浪速高等学校、七旧制専門学校から浪速大学へ

［図 1］「浪速高等学校図書印」

［図 3］「浪速高等学校図書」二種



［図 2］「浪速高等学校図書印」（隠し印）

［図 4］「浪速高等学校図書課」（受入登録印）二種

浪高による押捺印で確認できたのは、以上の六種。［図3］のうち、右の印影はいわゆる〝はしごだか〟の「高」、左は「高」が用いられているが、書体はほぼ同じである。［図4］の受入登録印は昭和2年と5年の捺印で、内側の楕円以外は形状を踏襲するように作成されている（下の印は、内側楕円が緩やかな波形）。

図書館印の大凡の傾向として、新たに印章を作成する場合は現行の印影に似せて作るパターンが多く、同定作業には注意が

必要である。もちろん例外もあって、その適例については後掲する。

浪速大学の母体校である七つの旧制専門学校のうち、［図5］

［図5］「大阪農業専門学校図書之印」

［図7］「浪速大学収蔵図書印」

［図6］「大阪青年師範学校図書之印」

［図8］「浪速大学図書」

［図6］の二校の蔵書印を探し得た。前者の押捺資料は、段成式撰『唐段少卿酉陽雑俎』（請求記号：924/D35/1-4）。後者は、J・S・ミル著『功利説』（133.4/8）。

［図1］～［図6］の印影がある資料を引き継いで発足した浪速大学図書館の用印を、［図7］～［図9］に示した。なお、［図10］の受入登録印に「大阪府立大学附属図書館」とあるが、登録番号は［図9］の「浪速大学図書館」印より三千番ほど若く、しかも日付は同一の「昭和27年8月27日」となっている。[6] 浪速大学が大阪府立大学に改称したのは昭和30年9月1日、従って実際の登録作業日を遡っての日付印である可能性あり。［図10］の印は複数

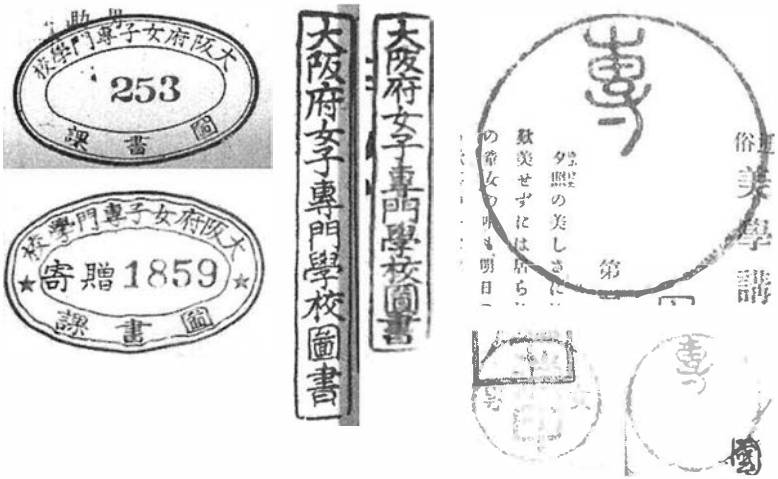
［図9］「浪速大学図書館」
（受入登録印）

［図10］「大阪府立大学附属図書館」
（受入登録印）

［図 11］浪速大学・学部図書室の印影
（農学部、教育学部二種、教養部二種）

冊で確認され、当時の整理状況を推察する上で興味深い。また、［図6］押捺の資料には浪速大学の印影がなく、大阪府立大学（旧）の昭和55年8月13日付の登録印あり、図書移管時から長きに亘る登録漏れ等の状況があったものか。

［図9］の意匠を基調に学部図書室の受入登録印が作成されていると思しく、その一部を［図11］に掲げた。いずれも浪速大学図書館が「母体校からの引継図書が主であった関係上、その保管も閲覧もおのずから関係学部教室で行われ、いわゆる分散配置」（前掲『大阪府立大学附属図書館30周年記念誌』）であったという、創設時を偲ばせる印影。その証左として、登録番号の上に「農」とある一つ目の印は、［図5］の「大阪農業専門学校図書之印」の押捺資料に捺されている。二つ目の「教」印には、三つ目の請求番号印「教育学部 133.42 mi-2」を併捺、押捺資料は中村正直訳『自由之理』（明治10年3月）。四つ目の印「浪大教養学図書之印」と五つ目の印「浪速大学図書館 教養 405 昭和24年11月11日受入」はともにベンサム著・堀秀彦訳『道徳の原理』に押捺、旧制高校等の印影なし。本書は昭和23年2月発行ゆえ、新刊書での浪速大学教養部購入図書とわかる。

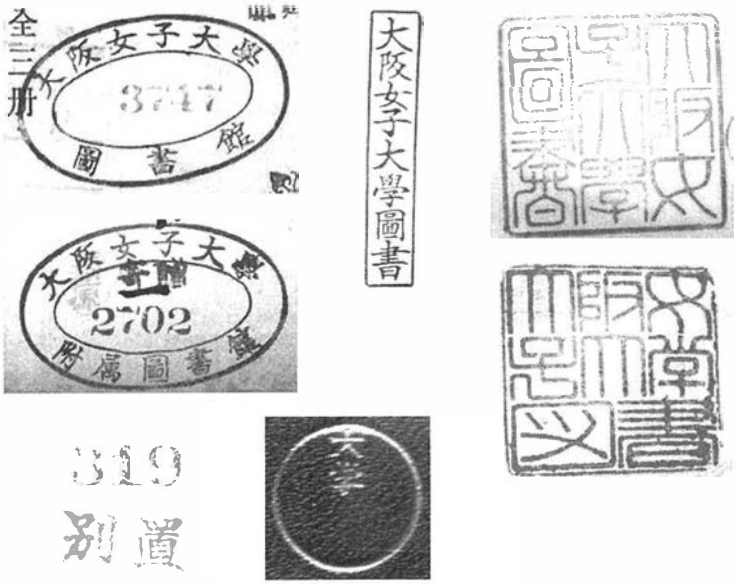


［図 12］大阪府女子専門学校図書室の印影

二・二　大阪府女子専門学校から大阪女子大学へ

［図12］に大阪府女子専門学校、［図13］には大阪女子大学、それぞれの使用印を掲出した。大阪女子大学の前身である大阪府女子専門学校（以下、「女専」と略記）の蔵書印は、丸に「専」の一文字を刻んだシンプルなもので、同校の校章を象ったデザイン。大小のサイズ二種類を確認できた。登録印も二種類、印文はいずれも「大阪府女子専門学校図書課」[7]。また、「女専消印」は訂正印として使用されており、後掲［図14］の「瀧村記念文庫」の寄贈票貼付資料にあり。誤って捺した「石山記念文庫」[8]印を消印したものである。

大阪女子大学では、蔵書印は「大阪女子大学図書」を使用。二種類の印影は、旧字で縦書きと新字で横書きという相違あり。様式の大幅な変更は、管見の限りでは例が少ない。また、大阪女子大学の校章は、女専の校章を継承する意匠で、丸中の上部に「大学」の文字をあしらったもの。資料への押捺例は探し得なかったが、[9]改装製本の表紙型押し（金文字）例をあげておく。「別置」印は、大阪府立大学図書館蔵「近代文庫」[10]の一部資料と、地下書庫の一般排架資料で押捺を確認した。大阪女子大学時代の押捺と思われるが、女子大図書館が別置後に分排



［図 13］大阪女子大学図書館の印影

を行ったのか、大阪府立大学への統合後に分排されたものか不明。なお併捺の番号は、必ずしも一資料ごとの付番ではない。[11]

二・三　個人寄贈者の片影

本節では、大阪女子大学旧蔵書を中心に、個人の寄贈者を知る縁となる蔵書印・寄贈票等を紹介する。

①瀧村斐男（瀧村記念文庫）

文庫の内容については、西田正宏氏による講演資料「大阪府立大学の貴重書庫の文庫と蔵書印」から引用する。

瀧村記念文庫　大阪府女子専門学校初代校長滝村斐男の寄贈書（大正十四年）。その多くは父瀧村小太郎の蔵書であったとみられる。蔵書印は瀧村記念文庫。…（略）…和本のみが貴重書庫に収められる。

稿者が閲覧した地下一般書架と和装本コーナーの図書のうち、瀧村斐男旧蔵書から得られた情報を以下に示す。

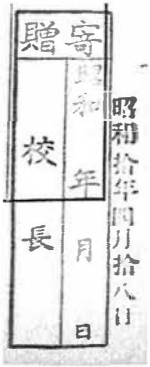
［図14］の寄贈票は灰色の一色刷だが、紫色の印刷も確認した。いずれも大判で見返し一面に貼付。在職中の昭和2年12月20日に急逝した瀧村斐男校長の蔵書を「瀧村文庫」として翌年1月19日に遺族から寄贈を受ける。[12] ただし、［図16］に示した、

後年の日付入（「昭和拾年四月拾八日」）の図書も存在する。

［図15］は、瀧村斐男の蔵書印。また、［図17］に掲出した記名はいずれも、［図14］の寄贈票が貼付された資料にあり。うち、中央の墨書「瀧村所用」が、瀧村斐男の筆跡（［図15］の押捺資料である、斐男自著の『美学思想』への書込）。「瀧村所用」の右の墨書「滝邨」は父・瀧村小太郎（鶴雄）のものか。左の鉛筆書き「瀧邨□男」は不明。

［図14］「瀧村記念文庫」（寄贈票）

［図15］「瀧村蔵書」



［図16］「寄贈 校長」（寄贈印）

※押捺資料『通俗／美学講話』（瀧村斐男著、不老閣書房、大正4年6月初版、大正14年9月第6版）

※書込資料『復讐／月氷奇縁』（曲亭馬琴著、兎屋書店、明治18年3月）

※書込資料『美学思想』（瀧村斐男著、日進堂、大正11年12月）

※書込資料『潜稽島遊／夢想兵衛胡蝶物語』（曲亭馬琴著、春陽堂、明治16年12月）

［図17］瀧村氏の記名三種

②山口義應（山口記念文庫）

『大阪女子大学80年の歴史』[13]所載の「年表」に、昭和6年5月25日「故山口教授記念図書、山口文庫341冊寄贈される」とあり。また、同書・資料編「（25）名簿」の「大阪府女子専門学校教員一覧」により「山口義應 発令日大正15・3・31～退職日昭和6・4・26」なる人物と推定した。

山口義應は愛知県生まれ。元・第五高等学校の国語科国文法

[図 18]「山口記念文庫」(寄贈票)

[図 19]「山口」

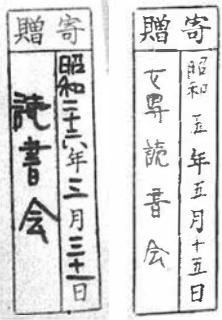
※押捺資料『雨月物語詳解』(坪内孝著、共同出版社、大正10年5月)

担当教授。[17]『昭和日本文典教授資料』(東京開成館、昭和2年11月)の著書あり。瀧村斐男同様、あるいは在職中の死去か。[図18]の寄贈票に在りし日の俤を留める。また、[図19]は寄贈票が貼付されている資料から採取した、山口義應の所用印と思しき印影。

③大阪府女子専門学校「図書雑誌読書会」

「初代瀧村校長ご遺族の方をはじめ、多数の先生方からのご寄贈を受けてきた」(『大阪女子大学80年の歴史』「図書館小史」)その陰で、図書館の収書に貢献してきた校友が少なからずいたことも記憶に留めておきたい。その一例として、[図20]の印影を紹介する。

「図書雑誌読書会」印は、「近代文庫」中に三顆確認できた。[18]



[図 20]「図書雑誌読書会」と寄贈印二種

「寄贈 昭和五年五月十五日 女専読書会」あるいは「寄贈 昭和二十六年三月三十一日 読書会」が併捺されており、いずれにも「大阪府女子専門学校 寄贈 図書課」の登録印([図12]の七つ目の印影参照)あり。新制の大阪女子大学が発足するのは昭和24年4月1日で、女専は併置という形であった。在校生を全て送り出した女専は、昭和26年4月1日廃止。同年3月31日の日付をもつ読書会寄贈印と「大阪府女子専門学校図書課」の捺印は、学校の変遷と歩みをともにした女専図書室がその役割を閉じる最後の瞬間を刻んだものとも見える。

おわりに

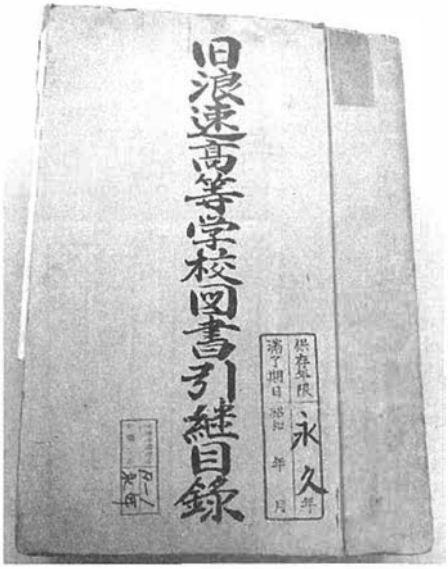
大阪府立大学図書館には、錚錚たる貴重書や名だたるコレクションが所蔵されており、これまで幾度も調査研究の対象となり、展観等で紹介が重ねられてきた。本稿では、それとは異なる一般書架の資料を中心にとりあげ、図書館による蔵書印・寄贈票等に着目して、図書館の歴史を振り返ってきた。大阪府立大学（旧）と大阪府立看護大学の蔵印に関しては筆が及ばず、加えて、取り上げた印影の押捺資料の過半についても書誌注記を省略したことは甚だ遺憾ではあるが、一般書の蔵書印に照明を当てることで得られる情報の有用性は、検証し得たと思う。

自館の蔵書印の歴史をまとめる動きは、いくつかの図書館でみられるが、[注] 全国に散在する各種図書館の総数を思えば、いまだ少数であろう。大阪府立大学図書館にも、蔵書印一覧を掲載した資料はなかった。

大阪府立大学は、大阪市立大学との運営法人統合を二〇一九年に迎える。その図書館も、組織を拡充し更に発展し続けるであろう未来を言祝ぎつつ、統合・再編を続ける図書館蔵書印の歴史をまとめ今後の研究調査の基礎資料とされることを、期待して止まない。

最後に、『大阪府立大学附属図書館30周年記念誌』より、図書館の責務を綴ったくだりを引用し、代々、図書館事務室で保管されてきた「旧浪速高等学校図書引継目録」の書影を掲げる。

いうまでもなく、附属図書館は大学にとって欠くべからざる存在であり、図書館の充実は、そのまま大学全体の充実につながることは申すまでもないことである。したがっ



［図 21］「旧浪速高等学校図書引継目録」表紙

[図 22] 同上綴じ込み用箋　※左枠参照

昭和二十七年八月二十七日

浪速大学出納員　中野益利［印］

附属図書館長　吉田清治殿

旧浪速高等学校図書の引継について

旧浪速高等学校所管の図書を別冊調書の通り受理を了したので、これが管理に関して遺憾のないようせられたい。

て、大学図書館は施設、情報収集、参考業務等各般にわたって、常に改善を加え、図書館機能の充実と拡大に努力する必要がある。この意味では、大学附属図書館の歴史はそれ自体の改善の歴史でなければならない。

これらの言葉の重みによって、図書館の歴史は築かれてある。

併せて、「旧浪速高等学校図書引継目録」の表紙に記された「保存年限　永久年」、また、冒頭に綴じ込まれた用箋にある「これが管理に関して遺憾のないようせられたい」との文言が、大阪府立大学図書館に脈脈と生き続けていることを知り、来る二〇一九年以降の図書館構想を思い描きつつ、小稿を閉じる。

（注）

（1）http://www.osakafu-u.ac.jp/info/outline/history/ 参照。

（2）法人化後の大阪府立大学と区別するため「旧」を付す、以下同じ。

（3）大阪府立大学附属図書館編集・発行、昭和55年12月。

（4）国文学研究資料館による大阪大学附属図書館・旧制高校蔵書等の別置和装本調査421点中、約180点に「大阪高等学校図書」印が確認できた。一方、浪高蔵書印は見られなかった。大阪大学附属図書館・旧制高校蔵書等の書誌情報は、国文学研究資料館「近代書誌・近代画像データベース」http://base1.nii.ac.jp/~kindai/bunrui1/OSQK.html で確認可。

（5）http://www.museum.osakafu-u.ac.jp/ 参照。

（6）［図22］の資料記載の日付と合致する。

（7）『大阪女子大学80年の歴史』（80年史編集委員会編纂、大阪女子

大学、平成17年3月）の「Ⅳ図書館小史」に、以下の記述あり。大阪府女子専門学校では独立施設としての図書館はなく図書室であった。その運営部署として図書課が置かれ、初代図書課長に魚澄惣五郎教授が任命された。職員は書記2名と給仕1名であった。その形態は大学に改組されるまで続いた。

［図4］の受入登録印が「浪速高等学校図書課」とあるのも、傍線部と同じ状況によると推察される。

（8）大阪府女子専門学校教授であった石山徹郎の寄贈書。在職期間は大正13年4月21日～昭和18年11月17日（注（7）参照）。

（9）大阪府立大学図書館職員の長谷川真奈美氏・室山恭子氏ならびに同大学教授の西田正宏氏によれば、資料押捺例ありとのこと。

（10）大阪女子大学旧蔵の「近代文庫」については、大阪府立大学図書館のサイト内「貴重図書」http://www.osakafu-u.ac.jp/library/collection/rare/に、以下の紹介あり。

近代文庫　明治初期から大正、昭和初期にかけての詩歌、小説、戯曲、評論等の初出誌、初刊本を主に約400点の文献を収蔵しています。中でも明治から大正の詩歌集は充実しており、日本近代詩研究上きわめて重要なコレクションです。

（11）「323別置」印が押されている資料を三点、「近代文庫」で確認し得た。『俳諧大要』（請求記号：911.3/T-3）、『四年間』（911.3/T-7）、『うまの糞』（911.36/TA-6）。いずれにも「エハラ文庫」の青印あり。

［図23］「エハラ文庫」

［図24］穎原退蔵寄贈印

「エハラ文庫」印は、「近代文庫」所蔵資料以外にも、一般書架で確認でき「319別置」「328別置」等の印を併捺。「近代文庫」分は、俳諧関係書に集中していることから、穎原退蔵との関係を想起したが、確証には至っていない。参考までに、大阪女子大学旧蔵書に押捺された穎原退蔵寄贈印（昭和32年2月7日付）を掲出した（この他にも、同年3月14日付を確認、両書ともに「エハラ文庫」印なし）。現在、「穎原文庫」がどのように分散しているかは、次の文章を参照。

故穎原退蔵氏（1894-1948）の収集された蔵書は多数あったが、そのうち現代書約2,500冊が昭和26年関西大学に譲られた。

なお、古典は京都大学文学部に、雑誌類は、大阪大学に収蔵せられている。

（『関西大学所蔵　生田文庫・穎原文庫目録』）

（12）注（7）の「年表」による。

（13）注（7）参照。

（14）「国立公文書館デジタルアーカイブ」所蔵の文書「第五高等学校教授山口義応外十四名召集免除認可ノ件」（大正12年3月26日）参照。
https://www.digital.archives.go.jp/das/meta/M00000000000002266304
また、「第五高等学校教授山口義応外十三名任命並更任ノ件」

（大正15年3月31日施行）にある「公立専門学校教授ニ任ス」が、大阪府女子専門学校と知れる。
https://www.digital.archives.go.jp/das/meta/M0000000000000003066326

(15) 押捺資料は、芥川龍之介『支那游記』（改造社、大正14年11月）、武者小路実篤『愛慾』（改造社、昭和2年3月第25版）、山本有三『西郷と大久保』（改造社、昭和2年1月）。文献資料調査81件中の3点ゆえ、今後の調査によりさらなる情報の発見と集積が期待される。

(16) 例えば、web上で確認できるだけでも、以下のようなサイトがある。

国立国会図書館　http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/outline/history/seal.html
国立公文書館　http://www.archives.go.jp/naj_news/10/special.html
岡山県立図書館
http://www.libnet.pref.okayama.jp/service/kyodo/makanewe b/makane08.htm
東京大学農学生命科学図書館
http://www.lib.a.u-tokyo.ac.jp/50th/ownershipstamp.html
愛知教育大学附属図書館
http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/book/index.html
http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/book/num2.html
慶應義塾図書館・慶應義塾幼稚舎
http://www.mita.lib.keio.ac.jp/exhibition/j7ali q0000000rzy-att/a15100350286 28.pdf
また、大学史において、図書館歴代の蔵書印が掲出されている例もある。北海道大学編著『北大百年史』（ぎょうせい、一九八〇～一九八二）の部局史 http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/100-bukyoku.jsp 中、附属図書館の章で蔵書印六顆の印影が掲載されている（岡田一祐氏のご教示による）。

＊本稿で引用したURLは、いずれも原稿執筆時（二〇一八年二月）の確認に拠る。

＊本稿で掲載した印影は、誌面での見やすさを優先して適宜拡大・縮小をおこなっている。従って、その比率については一定ではない。

〈付記〉
本稿をなすにあたり、資料検索と閲覧の件で大阪府立大学学術情報センター（学術情報室）の長谷川真奈美氏ならびに室山恭子氏にお世話になった。本稿の元となる講演当日には、司会の西田正宏教授から貴重なご教示を賜った。また、掲載した画像は全て、大阪府立大学総合図書館中百舌鳥所蔵であり、撮影および掲載許可を同館より戴いた。各位にあらためて謝意を表する。

（あおた　すみ・国文学研究資料館、総合研究大学院大学・准教授）